

モード界の頂点に君臨するデザイナーにして写真家です。トレードマークは銀髪のポニーテールとサンダラスに銀のアクセサリー。それに高い襟のシャツと革手袋。ぶれず動じず、どこか謎めいていて辛辣でユーモラスな独特の寸言を放ちます。「カール大帝」の異名をとり、ますますエネルギーがアップし、別格のステータスを保っています。

現在、シャネルとフェンディのデザイナーを務めています。一時は四つのメゾンのデザイナーを兼任するといふ驚異的な仕事量をこなしていました。ファストファッションからココ・コーラまで自由自在に協業したり、書店のプロデュース

Style アイコン

【カール・ラガーフェルド】

厳しくも魅惑的な言葉

スやピアノのデザインを手がけたりと、常にニュースになる仕事ぶりで話題をふりまくことも怠りません。

10年以上前ですが、エディ・スリマンがデザインしたテイオール・オムの細身のスーツを着たいという理由で、13か月で42kgの減量にも成功しました。そんなこんなな怪物的な仕事と神秘的な私生活に、本人の強烈なカリスマ性が加わり、

すでに生きる伝説となっています。

16日から公開のドキュメンタリー映画「ファッションを創る男 カール・ラガーフェルド」では、完璧主義者のデザイナーの生い立ちや舞台裏と共に、率直な心の内が明かされています。その厳しくも魅惑的な言葉に魅了されました。「日常生活のすべてにおいて、月並みな関係などゴ



メンだ」「自己演出をしすぎたので、今となっては本当の自分など分からない」「私のような人間にとつて孤独は勝ち取るもの。ファッションという虚飾の世界で生きるには、独りで充電する時間が要る」。ノートに書き写してしまっただけです。

ライフスタイル誌「GQ」のインタビューでは、「私は自分の生き方に合ったことには誘惑されません」とも語っています。自身を身を知り、使命を見極め、ストイックに努力し続ける人だけがたどりつける華麗な境地。

身の程知らずにあれもこれもと誘惑されてばかりのファッショニスタは、畏怖と憧れと若干のミーハー心をもって、そのはるかな高みを見上げるのです。

(エッセイスト 中野香織)